

こうかい ひこうかい べつ
公開・非公開の別

■ 公開 □ 部分公開
□ 非公開

第5回浜松市外国人市民共生審議会会議録

1 開催日時 令和6年7月26日(金) 午後6時00分から午後7時30分

2 開催場所 浜松市役所 本館8階 第5委員会室

3 出席状況

委員 小笠原 盟
川越 レニ

グエン ティ タン トウイ

クマラプラタマ

シム キュマン

只尾 ジェニファー

丹野 清人

トリゴエ デイゼ マミ

(敬称略・五十音順)

事務局 国際課 課長 松井 由和

国際課 課長補佐 古橋 広樹

国際課 一般職員 山村 果穂

4 傍聴者 1人(一般:0人、報道:1人)

5 議事内容

(1) 中間とりまとめ報告について

(2) 子育て世代への支援、子どもの健全な成長のための支援について

(3) 多様性を生かした文化の創造・地域の活性化について

6 会議録作成者 国際課 山村 果穂

7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 (有) 無

8 会議記録

1 開会・挨拶 《国際課長挨拶》

2 中間とりまとめ報告について 《事務局から説明》

・意見の内容を予算や取組みに反映するため、最終的に市長に提言を提出する前に、企画調整部長に中間報告書を提出し、予算に反映したい。中間報告書は、丹野委員長から提出いただく予定である。

・年内に中間報告書を提出したいため、本日の第5回審議会では、3つ目のテーマである「多様性を生かした文化の創造・地域の活性化」についても話したい。

・年内に中間報告書を提出したいため、今回までに話し合った内容を事務局がまとめ、中間報告書案を作成する。その後、委員に案を共有したうえで第6回審議会を開き、案に対する委員の意見を聞いて、中間報告書としてまとめたい。

《委員了承》

3 子育て世代への支援、子どもの健やかな成長のための支援について 《事務局から説明》

・前回の審議会での意見を振り返るため、子育て支援の現状と課題について説明した。

・国際課が実施している子どもの居場所になる取組みとして、「課外放課後日本語教室」や「外国につながる子どものための放課後日本語補習教室」について紹介した。

丹野委員長：

話し合いに入る前に、川崎市の「ぼちっとカフェ」について紹介させてください。これは、市立高校の校内に週2、3日夕方の時間帯にお茶菓子と飲み物を用意したフリースペースを開くもので、高校生や高校生に相当する年代の子どもが自由に來られます。きっかけは、中学生が亡くなった事件の加害者に外国につながる子どもが多くいたということでした。学校に通わず居場所がないことが事件につながってしまった反省から、居場所づくりを目的として始めました。「ぼちっとカフェ」は、学校に通っていない子どもに学校がどのような場所かを知ってもらう機会になるし、子どもから話を聞くなかで、どのように毎日過ごしているかがわかってきます。そのような取組みを通して、学校からドロップアウトしてしまった子どもや、行く機会を失ってしまった子どもが以前より学校に通ってくれるようになるなど、少しずつ成果が表れ始めています。

浜松市の「課外放課後日本語教室」や「外国につながる子どものための放課後日本語補習教室」では、公立学校に通う小学5年生から中学3年生、外国人学校に通う中高生が対象ということですが、年齢を問わず、学校に通っていない子どもを含めた「ぼちっとカフェ」のような場所があってもよいのではないかと、思ったところです。

それでは話し合いに入りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

川越委員：

私は娘が中学校に入ってからの子育てが大変でしたが、先生が「今日娘さんにこんなことが

あった」と電話をくれるなど、連携してくれたことがとても助かりました。私は日本語を話せるのでそのように情報を得ることができましたが、日本語がわからない親が情報を得るのは、難しいと思います。子どもだけではなく、親に対しての支援も重要です。「ぼちっとカフェ」のような場所に、親も参加できたらよいと思います。

グエン委員：

面談のときに通訳が同席することはありませんが、何か問題があって先生から電話がかかってきても、日本語がわからないと問題を把握できないし、相談したくても難しいです。

川越委員：

通訳にとっても、家庭の事情や背景を知らないとニュアンスを伝えるのが難しいと思います。

シム委員：

次世代のための日本語教室に支援者として参加したときに、通っている子どもに楽しいか聞いたら「自分と同じ国の子もいるし、他の国の子にも会えて楽しい」と言っていました。「楽しいから行きたい」場所になっていると思いました。PTA活動の中で、外国人の親に放課後日本語教室について紹介しましたが、親が情報を知らない、取りに行かない、理解がないと子どもはわからないので、それで子どもが行くことができないケースや、仕事の都合などで行かせたくても行かせることができないケースもあると思ったので、親を含めた支援が重要だと思います。

定時制高校のキャリアアップセミナーの開催支援をしたときに、真面目に勉強しない、集中できない生徒が多く「トイレに行く」と言ってそのまま戻ってこない生徒もいて驚きました。そのような生徒に対しては、学校の現場での支援も難しく感じました。

「外国人の子どもの不就学ゼロ作戦事業」で不就学の可能性がある家庭に調査に行きますが、親の協力が不可欠です。手紙をポストに入れておいても、何回訪問しても会えないこともあります。そのような中で、在留資格更新のときに、そのような問題がある人に何かしらのペナルティがあれば意識が変わるのでは、と担当職員の間で話したことがありました。

丹野委員長：

定時制高校は、昔は家庭の事情で子どもが日中働きながら通う場所でしたが、今は全日制に合格できない、問題がある生徒が行く場所になっていると思います。それは悪いことではなく、定時制の先生は、ドロップアウトしてしまうような子どもや外国人の子どものに慣れているので、全日制では受け入れられないような生徒も受け入れられる場所だとも言えます。

ペナルティについては、今年4月から家族滞在の子どもでも一定の条件を満たせば奨学金がもらえるようになりましたが、親に社会保険料や年金の払い忘れなどがあると、もらえなくなってしまうというような例があります。ペナルティも時には必要かもしれませんが、この例のように、親の問題なのに子どもが奨学金をもらえずに進学が叶わなくなってしまうような、次世代の可能性を否定するペナルティはよくないと思っています。

クマラプラタマ委員：

日本の学校に通ったことがない外国人の親は、日本の学校のあり方がよくわからないこともあ

と思います。自分の娘にも父親として日本語を教えたいと思いましたが、片言で正しく教えるのは難しかったです。それに対する支援があれば嬉しかったです。「ぽちっとカフェ」のような場所があれば利用したいです。

只尾委員：

教育は、親の責任が重大だと思います。例えば、小学校に入れば宿題がありますが、日本語がわからないと子どもに教えられません。宿題をやらなければ授業についていけなくなり、そうすると面白くないから学校に行きたくない、ということにもなりかねません。教えてもらえる人が身近にいたり、子どもにマンツーマンの講師をつけたりでできればよいのですが難しい場合も多いので、まずは外国人の親自身も日本語をある程度勉強しなければならないと思います。

トリゴエ委員：

私の娘が小学校に入ったときは、日本語がわからない生徒はまず別の教室で通訳と日本語を勉強して、ある程度日本語がわかるようになってから通常の教室に入って、他の生徒と同じように授業を受けることができました。このような方法を今も続けていると聞いています。娘は日本語がわかるようになってからも「ブラジル人がいる教室に行きたい」と言って、もう1回その教室に行かせてもらったことがあります。ポルトガル語で話せるのが嬉しかったそうです。

グエン委員：

私の娘は小学2年生から日本の学校に転入しましたが、6ヶ月程通訳と一緒に勉強させてもらうなどの支援を受けていました。そのときのことをとても感謝しているので、同じように困っている人がいたら助けになりたいです。

小笠原委員：

外国人の児童生徒で不登校がどの程度いるのか、データがあれば知りたいです。不登校の子どもにも「ぽちっとカフェ」のような場所を開いて、何か力になればいいと思います。

丹野委員長：

浜松版「ぽちっとカフェ」を検討するなら、子どもだけではなく、親や関心のある人などを含めて広く開かれた場所にできるとよさそうですね。外国人がどのように暮らしているのか、何に困っているのか、どのようにサポートできるのかを共有し、一緒に体験できるような場所があれば、様々な形で、地域の資源を開発していくことにもつながるのではないかと思います。

4 多様性を生かした文化の創造・地域の活性化について

《事務局から説明》

インターカルチュラル・シティ（外国人などの多様性を脅威ではなく好機と捉え、都市の活力や革新、創造、成長の源泉とする都市政策）の考え方と、はままつ多文化共生・国際交流ポータルサイト HAMAPO で公開している、多様性を生かして地域で活躍する外国人市民のインタビュー記事を紹介した。

丹野委員長：

様々な方面でご活躍されている委員の皆さんと、皆さんのように活躍する人をどのように増やしていくことができるのか、考えていきたいと思います。どのようなきっかけがあって今の自分があるのか考えていただき、最初のきっかけが何だったのか、共有していただけるでしょうか。

川越委員：

私は、本読みボランティアだと思います。娘も通っていた小学校で、週2回、1回あたり10分程度の活動を、8年間続けました。小学1年生から6年生まで読み聞かせに行ったので、学年によってどのような本がよいか、図書館に通って考えていました。他のボランティアの人との出会いもあって、楽しかったです。インドネシア語や、当時勉強していたイタリア語を紹介することもありました。

今は、インドネシアセミナーの開催が楽しいです。老人ホームなどで、踊りをしたり、インドネシアのナシゴレンや煎餅を食べてもらったり、バティック（インドネシアの染め物）を見てももらったりしています。「初めて会ったインドネシア人がレニさんだよ」と言ってもらえます。人と関わる活動をたくさんするようになった原点は、本読みボランティアだと思います。

只尾委員：

浜松市外国人学習支援センターの取組みで、中央図書館で、自分の言語で本を読む活動のときに、英語で『はらぺこあおむし』の読み聞かせをしたことがあります。

トリゴエ委員：

浜松市のフェスタ・サンバなどのイベントをきっかけに知り合った人とのつながりで、ポルトガル語通訳をすることがあります。

シム委員：

韓国にいたときには、やりたい気持ちはあっても恥ずかしかったり、面倒くさかったりしてやらなかったことに、日本に来てからチャレンジするようになったと思います。日本語もわからない状態で日本に来て、1からキャリアを始めることになったので、チャンスがあれば挑戦するという意識が強まりました。浜松国際交流協会(HICE)のイベントに誘ってもらったときに前向きに取り組んだことが、HICEで働くことにもつながったと思います。

日本語の勉強についても、やはり社会で活動して話してみないと、身につけません。そのような意味でも、息子が入っているサッカークラブのコーチやPTA活動は、大変なことも多いですが、

友人^{ゆうじん}もでき、よい経験^{けいけん}になっていると思います。

グエン委員^{いいん}：

私^{わたし}も日本語^{にほんご}が不安^{ふあん}でしたが、PTA活動^{かつどう}に参加^{さんか}したら、子ども^この親同士^{おやどうし}で友達^{ともだち}になれました。

川越委員^{かわごえいいん}：

子ども^こもや周り^{まわり}も頑張^{がんば}っている姿^{すがた}を見てくれると思います。

クマラプラタマ委員^{いいん}：

外国人^{がいこくじん}は知らない人^しと会うこと^{ひと}や、人と集まること^あが好きな人^{ひと}が多い^{あつ}と思います。私が防災リ
ーダーなどの活動^{かつどう}をしている1番^{ばん}の目的^{もくてき}は、人と会うこと^{ひと}です。

川越委員^{かわごえいいん}：

外国人^{がいこくじん}は集まること^{あつ}が大好き^{だいす}です。加えて、その場^{くわ}に食べ物^ばがあれば、行きたいと思う人^いは多い^{おほ}と思うので、もう少しラフな感じ^{かんじ}の集まり^{あつ}があるとよいと思います。

グエン委員^{いいん}：

大人^{おとな}だけの集まり^{あつ}には子ども^こもは参加^{さんか}しにくいので、同じ年代^{おなねんだい}の人^{ひと}がいるとわかれば、参加^{さんか}した
くなくと思います。

丹野委員長^{たんのいいんちよう}：

委員^{いいん}の皆さん^{みな}のお話^{はなし}を聞いていると、学校^{がっこう}や図書館^{としよかん}などの場^ば、コミュニティーがあつて、何^{なに}か
しらの形^{かたち}でコミュニティーに関わること^{かか}から人とつながつて、そのつながりがさらに広^{ひろ}がってい
くことで、活躍^{かつやく}につながっているようですね。そのように考^{かんが}えると、子ども^こもがいる人^{ひと}は子ども^こもや
学校^{がっこう}を通^{つう}じたつながりが生まれやすいですが、単身^{たんしん}で来日^{らいにち}して日^ひが浅^{あさ}い人^{ひと}をどのように巻^まき込む
かがやはり課題^{かだい}になりそうです。技能実習生^{ぎのうじっしゅうせい}などは会社^{かいしゃ}の取組^{とく}みが重要^{じゅうよう}ですね。

シム委員^{いいん}：

例^{たと}えば技能実習生^{ぎのうじっしゅうせい}が多いベトナム人^{おお}はサッカーが大好き^{だいす}なので、スポーツ^{スポーツ}を通して交^{こう}流^{りゅう}する
のもよいと思^{おも}います。

只尾委員^{ただ おいいん}：

フィリピン人^{じん}はバスケットボール^だが大好き^{だいす}です。

小笠原委員^{おがきわらいん}：

外国人市民^{がいこくじんし}のスポーツ大会^{たいかい}や駅伝^{えきでん}はどうでしょうか。各国対抗^{かつこくたいこう}など、盛り上^もがると思^{おも}います。
上手^{うま}く宣伝^{せんでん}すれば、浜松市^{はまつし}のPRにもなります。

川越委員^{かわごえいいん}：

多国籍^{たこくせき}チームでも、スポーツなら言葉^{ことば}が通^{つう}じなくても交^{こう}流^{りゅう}できますし、日本語^{にほんご}で話^{はな}してみると

「もっと話^{はな}せるようになりたい」と刺激^{しげき}にもなります。秋^{あき}にはイベントが^{おお}多いので、気^き候^{こう}のよい5月^{がつ}頃^{ころ}に開催^{かいさい}してはどうでしょうか。毎年^{まいとし}開催^{かいさい}しているインターナショナル・フェスティバルにスポーツの要素^{ようそ}を入れてもよさそうです。

丹野^{たんの}委員長^{いいんちよう}：

コミュニティーとの関^{かか}わりをつくることと、スポーツを通^{とお}じた交^{こう}流^{りゅう}の二^に本^{ほん}立^だてで進^{すす}めていけば、どこかで誰^{だれ}かとつな^もがりを持^もてる人^{ひと}が増^ふえそうですね。国^{こく}際^{さい}交^{こう}流^{りゅう}、国^{こく}際^{さい}理^り解^{かい}、文^{ぶん}化^か交^{こう}流^{りゅう}をスポーツと食^{しょく}と上^う手^まく組^くみ合^あわせると、より多^{おほ}くの人^{ひと}に関^{かか}わってもらえそうです。

5 閉^{へい}会^{かい}